

## 声 明

私ども京都仏教会は日本の宗教都市、京都の本山、門跡寺院等日本を代表する著名寺院をはじめとして、京都府下約一千ヶ寺を擁する寺院の団体です。

このたび3月10日、チベットの首都ラサ、及びその後の周辺地域で発生したチベット民族の抗議運動に対し、今もって中国当地域で発生したチベット民族の弾圧が続いている状況に、京都仏教会は深く憂慮しております。

我々仏教徒は、仏教の聖地ラサにおいて、仏教の根本の戒である不殺生戒が打ち破られ、多くの尊い人命が犠牲となっている事態に悲痛の念を禁じ得ません。

国家の理念を優先するのではなく、人命は地球より重く尊いことを中国当局は重要視せねばなりません。

現在も日本をはじめとする各国の大使館員、記者団、医療団体等がラサへの入国を制限され、国連の調査団さえも受け入れられておりません。

チベット動乱から49年。どうか中国当局は対話による解決の糸口を模索され、粘り強い交渉により、両者の平和を希求する心があらゆる障害を乗り越え、平和的合意が達成されますことを強く願うものであります。

2008年3月31日

京都仏教会 理事長 有馬頼底